

船いよ此澳ちて覆りてえをさるる。ぬ。長者悲しむ。子塔。伊弉國十一  
 寺と云ふ。伊弉國寺。其寺中事蹟と云ふ。たつといつ。あともいふ。い  
 へん。く。び。か。さ。び。く。さ。り。折の説とたきりていふ。帝師如鏡と  
 して。その中。用明帝の事と四十一や。詔を。帝の十六才ハ。欽明帝の二  
 十三年。ま。は。い。り。う。欽明紀と考ふる。二十三年春。平。新羅。打。成。任。那。官。家。  
 夏。六。月。詔。曰。新羅。西。美。小。醜。逆。天。無。狀。違。我。恩。義。破。我。官。家。毒。害。我。黎。民。誅。拜  
 我。郡。縣。王。臣。執。及。聞。此。而。不。憚。心。况。乎。太。子。大。臣。而。不。能。遠。瞻  
 抽。腹。共。誅。行。逆。違。天。地。之。痛。酷。報。君。父。之。仇。讎。則。死。不。恨。臣。子。之。道。不。成。や。ん  
 て。太。子。大。臣。等。と。勵。す。り。の。秋。七。月。大。將。軍。紀。事。麻。呂。宿。祿。副。將。軍。河。邊。守  
 瓊。主。と。遣。は。り。て。新羅の罪狀と問はせり。八月。十八。大。將。軍。大。伴。狹。手。友

△分註天  
 豊國法  
 師百病  
 人豊後  
 一住ち  
 豊鐘書  
 鳴録  
 中

と遣りて。兵教高と領して。高麗と代へ。是時。高麗にて。  
 襲人を降す。あつた。今。い。ふ。ま。る。室。議。あ。つ。て。皇。子。等。の。西。海。下  
 子。の。い。つ。し。も。ろ。ろ。あ。つ。た。既。子。皇。行。天。皇。ハ。日。向。の。髪。長。大。田。振。と。妃。の  
 一。後。の。ま。る。能。養。皇。師。が。女。市。朝。良。文。と。納。て。陽。議。の。い。つ。事。ト。書。紀。七。見  
 え。乃。く。帝。の。龍。潜。の。日。長。者。が。女。と。議。の。い。つ。制。し。て。無。一。や。も。い。の。難。し  
 帝。不。豫。の。所。時。皇。太。子。向。外。不。在。驛。馬。石。到。れ。あ。つ。た。皇。子。等。の。西。海。に。在。せ  
 一。と。是。時。お。至。り。て。召。の。い。つ。あ。つ。た。又。用。明。帝。の。即。位。二。年。豊。國。法  
 師。と。石。と。い。つ。あ。つ。た。其。所。以。あ。つ。た。ゆ。く。あ。つ。た。い。つ。あ。つ。た。真。野。長  
 者。が。の。ハ。豊。鐘。書。鳴。録。豊。公。西。征。の。役。陣。鐘。と。九。州。の。地。を。求。む。た。つ。に。と。云  
 どの。か。の。と。云。つ。て。内。山。運。成。持。合。及。び。慶。寺。兩。月。寺。の。古。跡。あ。つ。た。山

石量後上村好 まんのぼり 村好 無 山 跡 苗 と い 長 サ と 感 い て

の條に爲ま 事 を 又 お り し ま 真 名 野 の 真 野 あり 姓 氏 銘 石 章 諸 者 と い ふ

節の條に真野造出言俗國人尙古王也今按東國通鑑尙古王 也 有 清 宗 六 王 也 也 有 是

ありともあるなり。

いづく上とて代りて漢よりくる風俗多きをおもひし。蕨人のいふも

兵主の後をとりたれ。

ある下文とよみてさるるをし。

ことハ漢人の倭國。倭奴國。女國。女王國。東海姫氏國とある。この蕨國の

ふみてそのよみより畏くとも皇國の國跡と混せしもの。蕨國の女國

ふに。今來の兵人の倭姓するゆゑ附會して姫氏國やひ泉澤等と

女子とありて。女王の名いと高くナえたるゆゑ。女王國ともいふ。の

しる倭とよむ名。ハ漢人の呼ばしもの。蕨人の倭とよむ。即ち

が國跡といひありたるもの。字書に倭島木切。女王國名。在東海中と説

きけよある推盈。然ハあことあり。世より皇國の國跡と混。極高止の倭

字用ひらうとす。いづくありぬりかきたり。

水戸吉山氏。ハ代。倭奴國王之印の字面ハ就キ。倭と倭と通用して倭奴ハ

倭奴のりよと論。たハ倭奴ハ筑前國怡土郡の子かて。和名鈔ハ以止

と訓ませたる。是こされし。倭ハる不鳥木切の。いづく倭といふのづ

う。果あるなり。

うくて大平御覽。穂志曰。白帶方。至女國。高二十餘里。其俗男女無大小皆懸面



羅百濟皆以傳爲大國多珍物並教仰之恒遣使往來以上倭國と大日本とを  
混て書す文あれども倭國の事とて不可此つてさだ文大業三年其王  
利思比孤遣使朝貢とあるはりくく大日本と坐て天下知命天皇と倭國  
を傳王やまぐくあつて書す文に並書に望み記しんと引て其辨る事いひ  
つるべも事いひをい。

筑紫の地と女國と名けりるは太古に今長門の地と豊前の地と續て  
中々大なる穴門有て海外諸番又大船と氣入て往來しつるはこれ  
と谷口と呼て東風と谷口と呼し。此谷口と女の義を取て筑紫  
の地と女國と名けりるは初るるものあり。まゝ耶麻堆ハ幾人皇都の名稱  
と云て已に居所と耶麻堆や倭都と云。今も薩摩の地方とやま

し。琉球の童謡ハあさのこやまのこがけつるごうば。地つらまハ地  
をいへるや。

日本ヤリし名ハタドめり唐書ナラズ。唐書ハ倭日本別ト作と云て  
日本國者倭國之別種也其人入朝者多自稱大不以對云云。

はる日本人の稱大のさゆと書るやても。朝廷や幾國の尊卑の  
まゝとありし。これ足利氏の末乃世に訪候やと云て韓國の  
ひまるとのぬらふ。天正十四年豊臣公橋康庵を遣しつるは  
まゝ。朝鮮人のしく驚きて康庵を館驛必念上室。禁止倭儀與平時倭使  
絶異せしむ無之んも。あひあはれおれり。

幾人自く九州の地と倭と稱し。前漢書ハ東海中有倭人。今鳥羽

國以歲時來獻見之。其國在百餘國中。其國之地方の海とて  
いつく。今百餘國也。和名鈔に據る。九國一嶋の郡數凡て九十六。古  
に郡と國と稱す。當時百餘國有り。推て知る。又後漢書に。百餘國云  
。使驛通於漢者。三十許國。皆扶王。其國王。多遊那國王。其前國  
。是等并の類といふ。多るれ也。

多遊那國王が事下に出。其國造等并の事。後漢書の二十一章及  
書紀及び諸書に之也。

も魏志に。女王國東渡海。百餘里。復有國。皆倭種。其國在。海中小島之上  
。其國の倭地。海中小島に上。在。其東海と渡。四國なる國あり  
と云ふ也。

此事善隣國實記にあり。疑と傳。取或懐言。詳に之と解。其  
日本傳の説。其國あり。

其國魏志に。從郡至倭。海行。水行。歷韓國。下南。東到。其北岸。

もろろ。とて傳。其國。海岸。水行。三韓の地。歷。其北岸。

も南。東。倭の地。北岸。到。其國。

狗外。韓國。七十餘里。也。渡。一海。十餘里。至。對馬國。

和名。鈔。西海國。對馬島。都。之。島。

又南渡。一海。十餘里。名曰。瀾海。至。一大國。

一大。一。支。と。譯。其。國。名。曰。大。國。

又渡。一海。十餘里。至。末。盧國。

肥前國松浦郡。

東南陸行百里至伊都國。

筑前國怡土郡(伊都郡とも書く)の妻奴國王の女あり。

東南至奴國。

筑前國健甕郡。

百里東行至不海國。

筑前國宇治郡。

百里至投馬國。

投馬の和名鈔筑後郡の上妻加牟志島。下妻途上をり。妻の國。上郡

武諸國筑傳馬。筑後國傳馬。御井上妻將遠各五疋。女あり。此處より水行

二十日ありて。大隅國野次郡に至る。今上妻下妻の間。夫部川あり。

即柳川の川上ひり。けりて下りて。内海より南の方に入る。

水行二十日南至投馬國。女王之所都。水行十日。陸行一月。

南至投馬國也。後漢書。倭國之極南界ありて。今の九州の極南大

隅薩摩の地。

蓋し。襲人の在地。薩摩大隅の地なり。ゆりあきらなる。

日本輿地路程全書。大隅國曾於那。拒城あり。此處に襲人居り。或る

けん。拒城より名りの女王卑薄。出る。わや。今俗に九州の

る。いふと拒城と云ふ。いふよりあけし

今權子襲人の世嗣と作て。參考に備人やび。いふと極めて詳るるを得

たるにありしが、やうして三韓の往來カキテのふねとて朝臣の御事やまされたるも、  
登くも人唯賢者の訂正とよものなり。

襲ハ兵王夫差が後中つて、さるはち姫姓の國に、子孫遂に倍して王を并國  
号と建て傳へし。開化天皇代所時よきなり。使擧げて漢に遣す。

後漢書曰、倭在韓東南大海中、然山島爲居、凡百餘國、自武帝滅朝鮮、使馭  
以漢者三十許國、皆稱王、世傳統其大倭王居邪馬臺國云々。

其在天皇八年、新羅菟國や好と結ひ文聘ハ。

三國史記曰、新羅朕解尼師三年夏五月、與倭國結好、又賈梅十三國史記  
東國通鑑とわのり、年代の相違あり、されとみづる、改むるべし、  
とてしるす。

十六年、襲人新羅とら。

三國史記曰、脫解十一年、倭人侵木出島、王遣首于羽鳥、禦之不去、羽鳥死之  
四十二年、六十二年、襲人、新羅とら。

東國通鑑曰、新羅南解十一年、倭侵新羅、遣都三國史記曰、新羅祇摩尼師今  
立十一年四月、倭人侵末邊。

六十四年、新羅襲人、講和す。  
三國史記曰、祇摩尼師今十二年春三月、與倭國講和。

八十六年、菟國使と遣して漢にゆく。  
後漢書曰、元武中元二年、倭以國奉貢朝、遣使人負林大夫、倭國之極南界也。  
元武賜以印綬。

是哉者脱解といふもの新羅の事とある。脱解はたゞ肥後國玉名郡の人。其父藁人の女と娶て生む所。

東國通鑑に據るに新羅脱解元年。高宗の八十六年と當り。三國史記曰。脱解尼師今立。一。之。止。鮮。年六十。二。姓。昔。地。河。孝。夫人。脱解本多。遊。那。國。所。生。也。其。國。在。倭。國。東。北。一。千。里。初。其。國。王。娶。女。國。王。女。為。妻。有。娠。七。年。乃。生。天。躬。王。曰。人。而。生。即。不。存。也。宜。葬。之。其。女。不。忍。以。棺。裹。印。赤。寶。物。置。於。棺。中。浮。於。海。任。其。所。往。初。至。金。官。國。海。邊。金。官。人。怪。之。不。取。又。至。辰。韓。河。珍。浦。口。是。始。祖。赫。居。世。在。位。三。十。九。年。也。時。海。邊。老。母。以。繩。引。繫。海。岸。開。視。見。之。有一小兒在焉。其母養之。及壯身長九尺。風神秀朗。智識超人。或曰。此兒不知姓也。初。積。來。時。有一鵲。飛。鳴。而。隨。之。隨。者。鵲。宗。以。昔。為。氏。又。解。鞶。帶。而。出。曰。名。脱。解。脱。

解始以漁釣為業。供養其母。未嘗懈也。母謂曰。汝非常人。骨相殊異。宜從字以立功名。於是專精學問。兼知地理。望楊山下甄公宅。以為吉地。設詭計。以取而居之。其地後為月城。至南解王五年。聞其賢。以其女妻之。至七年。至庸高太輔。奏以故事。儒理將死。曰。先王顧命曰。吾死後無論于婚。以年長且賢者。繼位。是以寡人先立。今也宜傳其位焉。之。多。遊。那。國。也。阿。ハ。玉。名。郡。也。至國也。阿。ハ。所謂倭王也。藁人の事。之。之。甄公也。ハ。之。と。傳。人。也。之。ハ。東。國。通。鑑。に。據。る。に。本。倭。人。初。以。甄。渡。海。而。來。故。弗。焉。ハ。之。と。景行天皇十二年。藁人阿。ハ。之。又。云。之。ハ。帝。御。親。之。と。征。一。の。ハ。十三。表。國。志。云。乎。之。之。二十。七。年。獲。國。之。又。ハ。之。の。ハ。之。ハ。皇。三。十。日。本。武。尊。之。遣。ハ。之。討。て。平。ら。け。之。矣。之。了。





朱儒東南行船一年至深國。至苗國。使聖所得極於此矣。この後漢書の文よりしてあり。苗國ハ。景行天皇の親征後。數度の征伐。主と失ひつゝ。神功皇后の攝政の初まなり。ひそくに皇后の御名ヲ擬して。女と立て主ヤリ。カハ。さくも。姫尊ヤ。おつ。成。守。神。呼。也。傳。へ。た。さ。る。也。今大隅國時。郡。姫城姫宮等の地名あり。馭戎慨言の說とも参考なり。狗奴國ハ伊豫代河野。さくも。同書の說。さくも。伝。へ。た。さ。る。也。とに准ぎれば。是苗國なる。越國のさくも。さる。なり。天田の國國崎郡なる。姫嶋と。是苗國と。さくも。晋十通。さくも。晋書。其家舊以男子爲主。漢末倭人亂。攻伐不定。乃立女子爲主。名曰。卑彌乎。卑彌乎。平公孫氏也。其女王遺夜。至。帝。元。朝。見。其後貢聘不絶。及。文。帝。作。相。又。數。至。と。也。

作。天。皇。二。年。其。國。大。々。饑。へ。食。と。新。羅。の。也。

三國史記曰く。後漢初平四年六月。倭人大饑。來。求。食。者。十。餘。人。數。人。の。故。て。朝。貢。な。ら。ず。也。是。等。の。故。り。と。書。紀。小。二。年。三。月。天。皇。巡。行。南。國。是。時。能。爾。叛。之。不。朝。貢。於。是。將。討。能。爾。國。別。自。德。勒。津。發。之。浮。海。而。幸。紀。門。八。年。幸。孔。紫。九。月。詔。群。臣。以。議。計。能。爾。時。有。神。託。皇。后。而。誨。曰。云。天。皇。聞。神。言。有。疑。之。情。云。時。神。亦。託。皇。后。曰。云。然。天。皇。猶。不。信。以。是。擊。能。爾。不。得。勝。而。還。之。九。年。春。二。月。天。皇。忽。有。病。身。而。明。日。崩。一。云。天。皇。親。伐。能。爾。中。賊。矢。而。崩。也。三。月。皇。后。遷。吉。日。入。齋。宮。親。爲。神。主。云。時。得。神。託。隨。教。而。祭。然。後。遣。吉。備。臣。祖。鴨。別。令。擊。能。爾。國。未。終。決。底。而。自。服。焉。と。云。

九年二月天皇御親征能國を代了。賊矢中て崩す。雲州極河上天測記。第